

2023 年度事業報告

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

1. 庶務関係

(1) 会員数の状況 (令和 6 年 3 月 31 日現在) () 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	99 (-6)	9 (+3)	108 (-3)
関 東	423 (-20)	42 (-1)	465 (-21)
東 海・北 陸	122 (-5)	4 (-1)	126 (-6)
近 畿	207 (-24)	26 (-1)	233 (-25)
中 国・四 国	120 (±0)	23 (+11)	143 (+11)
九 州	95 (-8)	0 (-1)	95 (-9)
海 外	4 (±0)	0 (±0)	4 (±0)
計	1070 (-63)	104 (+10)	1174 (-53)

団体会員 154 団体、賛助会員 44 団体、顧問 3 名

(2) 代議員総会の開催

令和 5 年 6 月 4 日 (日)、Zoom ミーティングを利用し、オンラインにて開催した。決議事項の投票は Google フォームで行った。

(3) 年次大会の開催

令和 5 年 9 月 9 日 (土)、10 日 (日) 中国・四国支部担当で、県立広島大学(広島県広島市)において、2019 年度大会以来の全面対面方式で開催した。

(4) 一社)日本調理科学会創立 60 周年記念事業の準備状況

創立 60 周年記念事業としての「調理科学の百科事典」(丸善出版)刊行に向け、執筆者を確定し、執筆依頼を行った。

(5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 7 名の表彰を年次大会で行った。また大会において若手研究者発表奨励賞の投票を行い 4 名の表彰を行った。

(6) 会議の開催

① 理事会	3 回	② 編集委員会	6 回
③ 学会賞選考委員会	2 回	④ 刊行委員会	3 回
⑤ 選挙管理委員会	4 回		

2. 企画・広報関係

(1) 年次大会、講演会、研究会企画を中心とした活動を行った。

(2) 6 月 4 日 (日)、講演会を Zoom ウェビナーにて開催した。山本和貴氏(農研機構 食品研究部門 食品加工・素材研究領域 食品加工グループ グループ長補佐)に「SDGs 達成に向けた食品の科学・技術：調理科学への期待」を、2022 年度日本調理科学会学会賞受賞講演として坂本薫氏(兵庫県立大学環境人間学部教授)に「加熱調理品の調理特性に関する研究—砂糖の加熱熔融特性を中心として—」をテーマにご講演いただいた。なお、これらの広報は、日本家政学会、日本食品科学工学会、日本応用糖質科学会、生活科学系コンソーシアム等にご協力いただいた。また、次年度講演会(6 月 2 日)の準備を行った。

3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 56 巻 第 2 号 1,600 部、第 3 号 1,600 部、第 4 号 1,550 部、第 5 号 1,500 部、第 6 号 1,500 部
第 57 巻 第 1 号 1,500 部

編集・刊行

① 論文投稿状況 (令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

報文 18 編、ノート 7 編、資料 12 編、クッキングルーム 1 編 計 38 編

② 論文審査状況

区 分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
2021 年度投稿	15	0	7	3	1	26
2022 年度投稿	19	0	5	12	1	37
2023 年度投稿	10	3	2	9	14	38

③学会誌 56 巻 2～6 号及び 57 巻 1 号掲載発行状況

区 分	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	1 号	合計
報文	1	5	0	2	1	3	12
ノート	1	1	0	0	2	1	5
資料	0	0	1	0	2	0	3
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	2	7
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	0	2	0	1	1	4
ページ数	48	78	33	46	64	67	336

④学会誌は発行後 2 週間以内に電子版を J-STAGE にて公開した。

(2) 情報管理委員会

- ① 事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行い、次年度のホームページ暗号化の準備をした。
- ② 2023 年度大会演題登録及びホームページはアトラス社の Confit スタータープランを利用して行った。
- ③ メール・ニュースを 4 月 7 日号より 3 月 5 日号まで計 22 回 (jscsnews:119～141) 発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を 4 回 5 月、6 月、10 月、2 月に行った。
- ④ 転載申請に対し許諾の判断を行った。場合により学術著作権協会への申請を依頼した。

4. 渉外関係

- (1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。
- (2) 下記の関連学協会等と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)浦上食品・食文化振興財団、(一社)日本家政学会、(公社)日本栄養食糧学会、(公社)日本食品科学工学会、(公社)日本水産学会、NPO 法人日本栄養改善学会、(一社)日本応用糖質学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学学会、(一社)和食文化国民会議、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、NPO 法人うま味インフォメーションセンター、日本熱測定学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

5. 研究委員会関係

- (1) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会は、2023 年度大会においてコロナ禍の影響を考慮しデモ調理の実施は見送ったが、委員会の組織改編へ向け説明会を開催した。2024 年 1 月 1 日の能登半島地震では NPO キャンパーと連携して活動を行うため、メール・ニュースにてボランティア及び募金の募集を依頼した。3 月 12 日(火)に、NPO 法人キャンパー代表による「炊き出し活動現場からの緊急報告会」を開催した。
- (2) 旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、総まとめ報告書の WEB 公開に向け活動した。また、支部からの質問に対して、旧研究委員会委員が対応した。
- (3) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会は、年次大会においてポスター発表(33 演題)をし、連絡会を開催した。調査運営委員会を開き投稿論文の打合せを行い、学会誌の掲載が決まった。調査についての報告書を作成中である。

6. 特別委員会関係

- (1) 刊行委員会は、創立 40 周年記念事業であるクックリーサイエンスシリーズの刊行を、調理科学研究の情報発信の場また調理科学を広く紹介する目的で継続しており、11 冊目「米粉調理で広がる世界 市川朝子・香西みどり共著」を 8 月に刊行した。2024 年 4 月に 12 冊目を発行予定である。
- (2) 50 周年記念出版委員会は、農文協の会員制データベース「ルーラル電子図書館」の「伝え継ぐ 日本の家庭料理」コーナーに「全集 伝え継ぐ 日本の家庭料理」に掲載した料理に加え、掲載できなかった約 380 品及び「調理科学の目」・「読み方案内」を公開するため農文協に協力した。公開作業はほぼ終了した。